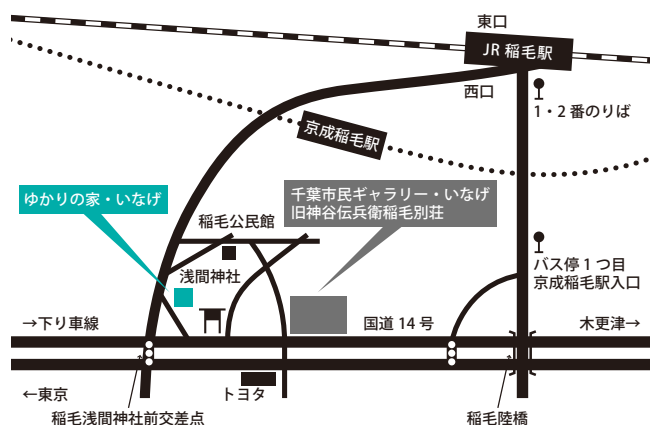
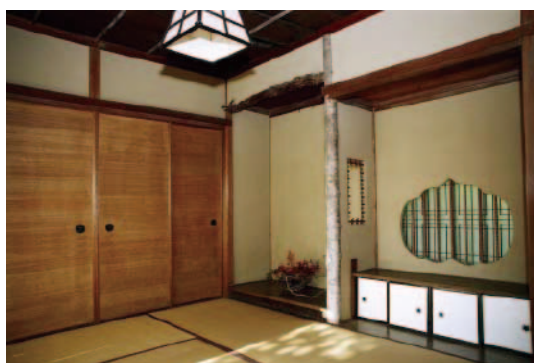


千葉市地域有形文化財

# 千葉市ゆかりの家・いなげ (旧武見家住宅)

愛新覚羅溥傑仮寓  
あいにしんかくらふけつつかぐらう

- 所在地 千葉市稲毛区稲毛1-16-12 (国道14号沿浅間神社大鳥居脇)
- 公開開始 平成9年4月5日
- 公開時間 午前9時から午後4時30分
- 休館日 毎週月曜日・祝日(5月3~5日を除く)※・年末年始  
※月曜日が祝日の場合は翌日も
- 入館料 無料
- 敷地面積 1,129.13㎡
- 建物構造 主屋:木造平屋建瓦葺(172.42㎡) 離れ:木造平屋建(18.71㎡)
- 問い合わせ 千葉市ゆかりの家・いなげ TEL 043-244-5370
- アクセス 京成稲毛駅より徒歩7分/JR稲毛駅より徒歩14分
- 駐車場 3台





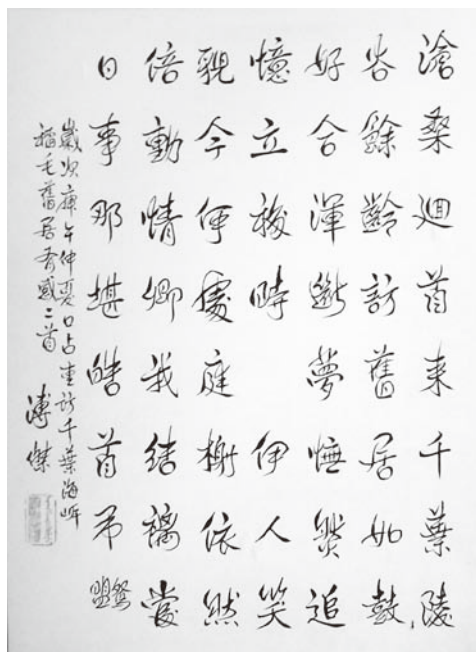
- 明治21年 稲毛に千葉県初の海水浴場オープン
- 同 年 海気館（保養施設）開館
- 明治32年 総武鉄道「稲毛停車場」開業
- 大正10年 京成電鉄「稲毛駅」開業

明治中期以降、保養地として多くの文人墨客が訪れた稲毛は、海岸線の松林を中心に、別荘・別邸が建てられました。この家もそのうちの一つであり、昭和12年には、中国清朝のラストエンペラー愛新覚羅溥儀の実弟である溥傑夫妻が、半年ほどこちらに居を構え、新婚生活を送りました。

保養地としての稲毛の歴史を今に伝える貴重な和風別荘建築として、平成28年に千葉市地域有形文化財（建造物）に登録されました。



愛新覚羅溥傑1907年(明40)～1994年(平6)  
浩1914年(大3)～1987年(昭62)



床の間に展示してあるものは、溥傑氏自詠自筆の書です。平成2年（1990）の旧神谷伝兵衛稲毛別荘オープンにあたり、中国・芸術学院教授・張錕氏（千葉市在住）を紹介して、千葉市に寄贈されました。

〔漢詩の訳※〕

過ぎ去った歳月を顧みて再び千葉に来る。世の中はすでに大きく変わっているが、余齡をもって稲毛の旧居を訪れる。新婚当時は琴瑟相和して仲がよく、まるで夢のようだった。短い期間ではあったが、想い出すとつい我を忘れてしまうほど幸せだった。

愛しい妻の姿と笑顔は今は何処に。昔のままの建物と庭を見ていると恋しい情が次々と湧いてくる。君と結婚したその日のことが目の前に浮かび、白髪いっぱいになった今にかつての愛の誓いを思い出すにはしのびない。

再び千葉海岸稲毛旧居を訪れて感あり一首を詠む。  
歳次庚午仲夏

溥傑

※愛新覚羅溥傑・浩 著（福永燐生 主編）、（2014）、  
「愛新覚羅溥傑・浩 書画集」、中央公論事業出版、62頁